

## 来年度の受験生の心構え

(1) スケジュール管理を徹底してすること

① 来年の新司法試験日までの日数を把握する。

残り〇〇日なら、10時間／日として、〇〇〇時間勉強できるはず。それを前提に作戦を立てる。特に、時期によって、択一と論文のバランス、科目毎のバランスを考えること。

子供の成長と同じで、いつ何をやるかのバランスが大切。逆に、その日数範囲で出来ることしかやらない。

今までの蓄積と、残り 200 日 = 2000 時間あれば、大丈夫と思え！

② スケジュール管理のテクニック

受験の準備は、漫然と過去問を勉強していても点数は取れない。限られた時間で広い範囲をカバーするため、日々、残りの日数から計算して、一日何問するか計算すべし。

ただし、スケジュール管理に時間をかけない。でも一覧性を確保すること。

私は、手帳の見開きページに進捗表を線で引いて作成し、を付けた。

③ スケジュールのイメージ

	夏休み	9月	10	11	12	1	2	3	4	5
重点	択一	論文	論文	論文	論文	論文	択一	択一	=	=
学校						◎				
予備校			◎	◎	◎		○	○		
自習	◎	○					◎	◎	◎	◎

④ 記事の切り貼り、金言メモ

私は、1冊の手帳を3年間使った。それを見ると、予備校の講師が言った内容とか、分析とかの切抜きが貼ってある。また、辰巳の〇×式の問題集を、3年で何回回したかよくわかる。

(2) やる範囲の確定すること

① 何をやらないか、を明確に。切り捨てる勇気をもつこと

私は、新司法試験合格 = 試験問題で合格点を得ることとした。決して上位合格は狙わない。確実に、どんな問題でも合格点を確保することを優先した。

② 具体的目標の設定

私は、択一で245点 = 7割、論文で400点 = 5割である。(事前の模試でも、高得点よりも悪い点を取らないこと、が大事である。私は結果として、択一で8割、論文で5割5分である。) そうすれば、前年の水準からすると、確実に合格する。決して欲張らない、と思った。



*Your complimentary  
use period has ended.  
Thank you for using  
PDF Complete.*

[Click Here to upgrade to  
Unlimited Pages and Expanded Features](#)

更に、それを自分の美刀と拵刀に合わせて、最終目標値に置き換えた。

③ 私の「確実に確保できる点数のブレークダウン」

< 択一 >

	点		%		メイン	
公法系	65	憲法	60	人権	判例	判例六法+百選
				統治	条文	条文素読+問題集
		行政法	70	行政事件訴訟法	判例	判例六法+百選
				その他	条文	
民事系	105	民法	60	総則		問題集
				物権		問題集
				債権		問題集
				不法行為		判例六法+百選
				家族法		判例六法
		民事訴訟法	80		条文	条文素読+問題集
		商法	80	会社法	条文	条文素読+問題集
商法	条文			問題集		
手形小切手	条文			問題集		
刑事系	75	刑法	70	総論		問題集
				各論		問題集
		刑事訴訟法	80		条文	条文素読+問題集
合計	245		70			

< 論文 >

	点		%		メイン	
公法系	100	憲法	45	人権のみ		
		行政法	55			
民事系	150	民法	60			
		民事訴訟法	40			
		商法	50	会社法のみ		
刑事系	100	刑法	45			
		刑事訴訟法	55			
租税法	50					
合計	400		50			

④ 調整

具体的合格点目標は、達成できる確立の一番高い組み合わせで考える。

とにかく、自分の実力と相談しながら、合格点に達する可能性が最も高い目標点数の設定と効率的な努力を行うことである。

知識不足・勉強不足の分野を遺り残してもよい、目標点に達しているのなら。

⑤ 標を持つことの効用

常識的に考えて、回答の大枠が決まってくるから、「しない」でいいことが見えてくる。

即ち、論文では、学者レベルの法律知識を相関的・体系的に描き出すのではなく、「事案処理(要件定立とあてはめ)を適確に行い、それを判り易く文章化すること」であると位置づける。要は、合理的結論を導くための法曹がする最低限の整理作業を示すことである。

具体的には、出来るだけ単純明確に、事案(問題)に即して、法を適用して(要件を出して、あてはめて)、結論(効果)を出す筋道を見せるだけということとなる。

したがって、反対説はあまり書かないで、自説をいかにきちんと書くかに集中した。

(3) 精神論・・・軽視しないこと

① 来年必ず合格すると決心

実力不足で受け控えとか試しとかいって再来年に目標設定しても、結局、勉強しないで1年棒に振る。3年で三振する人は、5年やっても受かんない。

② 信じるのは誰か決める

自分を信じるか、特定の先生を信じるか、予備校を信じるか。とにかく、勉強の方法論で、迷わない。

スポーツといっしょで、試合直前に「勝つんだ」と自己暗示をかける選手と同じ。受験前に、客観的に自己分析する必要は無い。

(4) 現時点ですべき受験準備・・・まだ余裕がある今だからしておこう。

① 実力の把握

過去問を、時間通りやって採点してもらう(予備校で、1通 1000 円ぐらいで採点してくれるサービスあり)。それによって、自分の弱点科目、何が書けないのかを知る。

② 優秀答案の収集

新試過去問(論文)の<模範答案+優秀答案+不合格答案>の収集しておく。市販の教材もあるし、予備校論文問題の<模範答案+優秀答案>とかもある。予備校費用がない人は、何とか①の情報を持っている人とお友達なろう。

- ・ 本試の模範解答 = 私は、辰巳の答案分析会で入手した。・・・もともと、模範解答は、予備校講師が、時間無制限で、完璧?に作成した解答であるため、受験生には、非現実的であり役に立たない。むしろ、合格者の答案(再現答案)を入手して、「どの論点」を「どれだけ」書くかべき、「どれだけ書かなくても合格点に達するか」を把握した方が有意であると思う。
- ・ 答練・模試の模範解答・優秀答案 = 模範解答は上記の通り。答練や模試は、数があるので、優秀答案はかなり参考になる。特に、必要最低限の触れ方・書き方で、いかに点を確保するかテクニックを盗むこと、更に、論点をどれだけ落としてもそれなりの高得点が

得られることの安心感になる。

- ・ 模範解答・優秀答案の分析 = 私は、IRACでパターン化、色分けした。書くべき論点のボリュームが把握できる。

③ 司法試験委員会のヒアリングの収集(インターネット)。

司法試験委員が、試験で何を聞いたかったのか、本試験問題とのリンクを考える。

人間、そんなに変わらない。来年の問題も、聞き方自体は、今年の延長線上にあるはず。

また、今年、出来が悪いと指摘のあるものは、来年も出るかも。特に、択一等、形を変えて。

(5) 予備校の活用

可能であればやってください。

時期	内容	特記事項	役立度
3年 後期	一問答練+スタンダード論文(辰巳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 点数は乱高下。うまく書けた時は、優秀答案になっても、次回は30点台とか。</li> <li>・ <u>模範解答を参考にしてしたが、これが失敗のもとと思った。模範答案は逆立ちしても2時間で書ける内容ではない。「優秀答案」をみて、こんな程度でこの点がつくのかというのを納得。参考・模範とする答案を、模範答案から優秀答案や普通答案に切り替えた。</u></li> <li>・ とにかく、書き切ること、論点を大外ししないことの練習に気をつけた。そうすると、50点ラインはキープできるようになる。</li> </ul>	◎
3年 年明け	スタンダード短答(辰巳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間内に、所定の問題を終わらせるための時間配分・感覚を身に着けるが主眼。</li> <li>・ 更に、訴訟法、商法は、択一問題が少ないから、問題集めに助かった。</li> </ul>	△
試験 直前	全国模試(辰巳)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ とにかく通しでやってみる。手の痛さとか、お尻の痛さとか、周りの雰囲気とか、経験しておくこと。</li> </ul>	○